

目標値の設定について

目標 1-1 全市的なネットワークを維持する

①鉄道（廿日市市内の駅）の日利用者数

現況（H25年度）	目標（H32年度）
62.2 千人/日	62.2 千人/日

- ・国勢調査に基づく社人研推計値によると、平成 32 年度に対平成 25 年度で 3.5%減少する見通し（推計は 5 年間隔であるが、推計値の無い間の年は均等割合で減少すると仮定）
- ・市内鉄道駅の利用者数もこの傾向で減少するとした場合、

$$62.2 \text{ (千人/日)} \times (1-0.035) = 60.0 \text{ (千人/日)}$$
- ・一方、廿日市市観光振興基本計画（平成 27 年 1 月策定）では、市内を訪れる観光客数を平成 24 年の 729.3 万人/年から平成 36 年は 763.1 万人/年（+33.8 万人/年）にすることを目標としている
- ・遠方からの来訪者が多い宮島の観光客の増分が鉄道を利用すると仮定し、12 年間で均等に増加するとした場合、平成 25 年の 489.9 万人/年から平成 32 年には 497.5 万人/年と +7.6 万人/年になる予定であり、1 日あたり +0.2 千人/日となる
- ・また、現在整備中の廿日市駅北口周辺への人口増加や、今後の立地適正化計画と連動した鉄道沿線への居住誘導、マイカーからの転換等により +2 千人/日とし、目標値は現況と同じ 62.2 千人/日とする

(1) 総観光客数

総観光客数は宮島・廿日市地域が増加、大野・佐伯地域がほぼ横ばい、吉和地域が漸減傾向にあるが、市全体としては増加傾向にある。

宮島は今後量的な拡大よりも質の向上を追求することから、繁忙期の観光客数については現状維持程度とし、宮島の閑散期と廿日市・大野・佐伯・吉和地域では一定の増加を目指し、市全体では 41 万人増の 770 万人 を目標とする。

参考

地域	現状値 (H24年)	目標値 (H36年)	H36年/H24年
廿日市	97.0 万人	105.3 万人	1.086
大野	61.2 万人	66.5 万人	1.086
佐伯	42.9 万人	46.6 万人	1.086
吉和	39.4 万人	42.8 万人	1.086
宮島（閑散期の 5 ヶ月間）	152.5 万人	165.6 万人	1.086
宮島（繁忙期の 7 ヶ月間）	336.3 万人	336.3 万人	1.000
総観光客数	729.3 万人	763.1 万人	1.046

図 廿日市市観光振興基本計画における総観光客数の目標値

②バス（路線バスの市内完結系統及び自主運行バス）の日利用者数

現況（H26年度）	目標（H32年度）
4.3 千人／日 (1,583,522 人／年)	4.4 千人／日 (1,588,459 人／年)

- ・地域別・年齢層別の人口増減率を簡易推計により算出し、各路線の利用特性に沿って適用する人口増減率を設定し、平成32年度の各路線の利用者数を想定すると、下表のようになる
- ・単純に人口増減のみを考慮した場合、現況4.3千人／日の利用者が4.2千人／日に減少
- ・利用促進等により、約11万人の市民の2/3が年間1回多く利用することで、1日あたり110000人×0.66/365日≒0.2千人／日の利用者の増加を見込み、目標値を4.4千人／日とする

表 各路線の利用者数の増減見通し

種別	路線	現況 H26年度	見通し H32年度	適用する 人口増減率	
地域間幹線	広電バス佐伯線（津田・上栗栖）	277,403	241,980	佐伯：全	
	広電バス佐伯線（吉和）	69,711	62,394	吉和：全	
支線	沿岸部大規模団地	広電バス宮園・四季が丘団地線※	597,530	584,922	廿日市：全
		広電バス阿品台線※	298,555	292,256	廿日市：全
	沿岸部 その他	広電バス原・川末線	33,216	32,515	廿日市：全
		廿日市さくらバス	85,008	83,214	廿日市：全
		おおのハートバス	193,790	195,450	大野：全
	中山間部 ・島しょ部	広電バス玖島線	18,723	14,211	佐伯：年少
		佐伯自主運行バス	3,374	2,561	佐伯：年少
		佐伯さくら号（デマンド）	5,192	5,492	佐伯：高齢
		吉和さくらバス（デマンド）	1,020	864	吉和：高齢
		宮島島内乗合タクシー	30,417	30,417	現状維持
対象全路線（年間）		1583.5 千人	1515.9 千人	-	
対象全路線（1日あたり）		4.3 千人	4.2 千人	-	

※広島市街直通便を除く

表 簡易推計（コーホート変化率法）による各地域の年齢階層別の人口増減率
（平成27年度の値を100%とした場合の平成32年度の割合）

地域	年齢層			
	-14	15-64	65-	全年齢
廿日市	94.7%	93.2%	112.4%	98.2%
大野	102.0%	98.5%	104.4%	100.7%
佐伯	79.9%	80.6%	104.8%	89.4%
吉和	109.3%	91.3%	87.3%	91.3%
宮島	115.8%	86.9%	94.9%	92.6%
全市	95.9%	93.3%	108.8%	97.9%



図 簡易推計（コーホート変化率法）による各地域の年齢階層別の人口増減状況
 （平成 27 年度の値を 100%とした場合の平成 32 年度の割合）

※年齢階層別の詳細データ取得の都合上、各年度 2 月 1 日時点の人口（住民基本台帳人口+外国人登録数）を用いている

目標 1-2 利用者を増やし財政支出の増加を抑制する

補助金や負担金を支出するバス路線等（おおのハートバス東西横断ルート及び各支線）の、財政支出千円当たりの利用者数

現況（H26年度）		目標（H32年度）	
沿岸部	4.5 人／千円	沿岸部	4.5 人／千円 以上
中山間部、島しょ部	2.0 人／千円	中山間部、島しょ部	2.0 人／千円 以上

- ・ 現況の財政支出千円当たりの利用者数は、沿岸部は 4.5 人／千円、中山間部、島しょ部は 2.0 人／千円
- ・ 今後、沿岸部では広電バス原・川末線の代替交通、中山間部、島しょ部では広電バス佐伯線（玖島）の代替交通に伴う財政支出が見込まれるが、いずれも既存路線への補助金・負担金と同程度の見込み
- ・ 地域の移動に係る利便性を確保しつつ、各路線の利用促進等により現状より利用者を増やすこととする

表 各路線の年間利用者数と財政支出額

エリア	地域	路線	年間利用者数(人)	年間財政支出額(円)	財政支出千円当たり利用者数(人/千円)
沿岸部	廿日市地域	広電バス原・川末線	33,216	12,000,000	2.8
		廿日市さくらバス	85,008	33,894,240	2.5
	大野地域	おおのハートバス	193,790	23,415,699	8.3
中山間部	佐伯地域	広電バス佐伯線(玖島)	18,723	4,500,000	4.2
		佐伯自主運行バス	3,374	9,958,235	0.3
		佐伯さくら号	5,192	6,122,497	0.8
	吉和地域	吉和さくらバス	1,020	6,953,985	0.1
島しょ部	宮島地域	宮島島内乗合タクシー	28,518	974,962	29.3

沿岸部合計	312,014	69,309,939	4.5
中山間部、島しょ部合計	56,827	28,509,679	2.0

目標 1-3 公共交通の満足度を向上する

「市民の移動手段や活動機会を確保する路線バスやコミュニティバスの利便性」に関する満足度

現況 (H26 年度)	目標 (H32 年度)
2.53 ポイント	3.00 ポイント

- ・第6次廿日市市総合計画まちづくり市民アンケート調査の各項目のうち、公共交通に関する「市民の移動手段や活動機会を確保する路線バスやコミュニティバスの利便性」の満足度は**2.53**ポイントと他の項目と比較して低い
- ・平成32年度までに、満足度を平均値である**3.00**ポイントまで向上させることを目標とする

表 第6次廿日市市総合計画まちづくり市民アンケート調査における各項目の満足度と重要度等

順位	凡例	項目	満足度		重要度		ニーズ度	分類
			満足度	順位	重要度	順位		
1位	■	29 まちの持続的な発展を支える安定した働く場所の状況	2.53	50位	4.22	15位	1.69	A
2位	■	18 地震・風水害などの災害対策	2.95	29位	4.51	3位	1.56	A
3位	■	43 市民の移動手段や活動機会を確保する路線バスやコミュニティバスの利便性	2.53	50位	4.07	27位	1.54	A
4位	■	31 安全で快適に利用できる身近な道路や歩道の整備	2.73	46位	4.21	16位	1.48	A
5位	■	12 介護保険サービスなど高齢者や家族の生活を支える高齢者福祉サービス	3.01	17位	4.47	4位	1.46	B
6位	■	40 渋滞が起こりにくく周辺地域や市内の移動をスムーズにする幹線道路の整備	2.72	47位	4.16	20位	1.44	A
7位	■	19 防犯や交通安全に向けた取り組み	2.98	24位	4.41	7位	1.43	B
8位	■	6 確かな学力とたくましく生きる力を育む学校教育体制・内容の充実	3.01	17位	4.41	7位	1.40	B
9位	■	10 医療機関や救急医療体制の充実など安心して生活できる体制づくり	3.22	6位	4.60	1位	1.38	B
10位	■	34 快適な環境を維持し、浸水被害を未然に防止する下水道の整備	3.00	21位	4.37	10位	1.37	B
11位	■	11 保育や子育ての支援など子どもが健やかに育つ環境づくり	3.12	13位	4.46	5位	1.34	B
12位	■	23 省資源・省エネルギーの促進など低炭素型社会の形成に向けた地球温暖化防止への取り組み	2.82	41位	4.13	23位	1.31	A
13位	■	41 駅前広場やアクセス道路の整備などJR駅・広電駅周辺整備による鉄道の利便性	2.93	32位	4.19	18位	1.26	A
15位	■	21 民間木造住宅の耐震診断など住宅の安全対策の促進	2.70	48位	3.96	33位	1.26	D
13位	■	14 障がい者の自立支援や福祉サービスなど障がい者が地域で安心して暮らすための環境づくり	3.03	15位	4.29	12位	1.26	B
16位	■	38 安全で快適な市街地の整備	2.89	38位	4.12	24位	1.23	A
17位	■	13 地域福祉体制の確立など地域でお互いに支えあう体制づくり	2.98	24位	4.20	17位	1.22	B
17位	■	32 安全に子どもが遊べる環境や利用しやすい公園の整備	2.90	37位	4.12	24位	1.22	A
19位	■	22 海、川、山などの自然環境の保全状況とその取り組み	2.94	31位	4.15	21位	1.21	A
21位	■	9 市民が健康に生活できるための支援	3.16	9位	4.36	11位	1.20	B
20位	■	5 学校施設の整備による安心・安全な教育環境の確保	3.20	7位	4.41	7位	1.21	B
22位	■	15 生活の安定と自立を促進するひとり親家庭などへの支援	2.91	36位	4.08	26位	1.17	A
25位	■	16 低所得者への支援	2.74	45位	3.90	37位	1.16	D
24位	■	3 青少年の健全育成に向けた活動の場や機会の提供	3.01	17位	4.17	19位	1.16	B
22位	■	51 合併後のまちの住みやすさ	2.81	43位	3.98	31位	1.17	D
26位	■	24 ごみの発生抑制・再利用・再資源化による循環型社会づくり	3.13	11位	4.28	13位	1.15	B
27位	■	37 適正な規制や誘導に基づく計画的なまちづくり	2.85	39位	3.92	35位	1.07	D
28位	■	17 消防・救急体制の充実	3.54	1位	4.59	2位	1.05	B
28位	■	20 相談窓口など消費者の支援体制の充実	2.95	29位	4.00	29位	1.05	D
30位	■	1 一人ひとりを大切にすると人権が保障された社会づくり	3.24	4位	4.27	14位	1.03	B
31位	■	33 安全で良質な水を供給する上水道の整備	3.42	2位	4.43	6位	1.01	B
32位	■	25 特色ある農水産物の生産支援や地産地消の取り組み	3.00	21位	4.00	29位	1.00	B
32位	■	46 市民と行政の協働のまちづくり	2.85	39位	3.85	40位	1.00	D
34位	■	49 支所機能の充実	2.99	23位	3.98	31位	0.99	C
35位	■	42 ノーカーデー、パークアンドライド(※1)が実践できる環境整備	2.57	49位	3.54	49位	0.97	D
36位	■	48 窓口での内容に応じた適切な職員の対応	3.19	8位	4.14	22位	0.95	B
37位	■	27 立地基盤の整備や誘致活動など企業誘致の取り組み	2.77	44位	3.70	44位	0.93	D
38位	■	28 おもてなしの心を育むことや観光資源の魅力アップなど観光の振興	2.97	26位	3.89	39位	0.92	D
39位	■	2 家庭・地域・職場などあらゆる分野において男女が共同して参画する社会づくり	3.14	10位	4.01	28位	0.87	C
40位	■	36 地域の特色を生かした美しい景観づくりの状況	2.96	28位	3.79	42位	0.83	D
41位	■	4 生涯学習への支援や学習機会の提供による市民が手軽に学べる環境づくり	3.13	11位	3.95	34位	0.82	C
42位	■	39 市民生活を支える都市機能が集積したにぎわいの場の整備	2.82	41位	3.63	46位	0.81	D
43位	■	50 市民センター機能の充実	3.06	14位	3.85	40位	0.79	C
44位	■	45 地域がつながり絆が深まる地域コミュニティ活動(※3)の支援	3.03	15位	3.74	43位	0.71	C
45位	■	47 市ホームページの使いやすさ・分かりやすさ	2.93	32位	3.63	46位	0.70	D
46位	■	44 NPO(※2)・ボランティア活動の支援など市民が活動しやすい環境づくり	2.97	26位	3.65	45位	0.68	D
47位	■	7 スポーツ施設の整備及び活動の支援	3.23	5位	3.90	37位	0.67	C
48位	■	8 文化施設の整備及び活動の支援	3.28	3位	3.92	35位	0.64	C
49位	■	26 市民の多様な購買ニーズに対応した大型店舗などの商業施設の充実	3.01	17位	3.60	48位	0.59	C
50位	■	30 公営住宅の整備などの住宅対策	2.92	35位	3.49	50位	0.57	D
51位	■	35 市営墓地の整備	2.93	32位	3.45	51位	0.52	D
平均			2.97		4.06		1.09	

目標 2-1 交通結節点や乗継拠点において各種交通手段の連携を強化する

①市や交通事業者による交通結節点及び乗継拠点における駐車場や駐輪場の新規整備件数

現況 (H27 年度)	目標 (H32 年度)
0 件	3 件

- ・ 佐伯支所周辺、吉和支所周辺、玖島分れ周辺等において整備することを想定する

②バス接近表示モニタの設置件数

現況 (H27 年度)	目標 (H32 年度)
1 件	9 件

- ・ H27 年度中に、JR 宮内串戸駅のバス停 1 箇所に設置
- ・ 上記以外で、H32 年度までに次の場所に設置することを現時点で想定

広電廿日市市役所前駅、廿日市市役所、ゆめタウン廿日市、JR 阿品駅、広電阿品駅
大野市民センター、JR 大野浦駅、佐伯支所周辺の交通結節点等

目標 2-2 利用環境のバリアフリー化を推進する

①バリアフリー化された駅数 (市内 JR 駅)

現況 (H27 年度)	目標 (H32 年度)
4/6 駅	6/6 駅

- ・ 平成 32 年度までに、現在未整備である JR 廿日市駅、JR 大野浦駅を整備することを現時点で想定

②市内を運行するバス車両 (高速便・バイパス便除く) のバリアフリー化率

現況 (H27 年度)	目標 (H32 年度)
26/31 台	31/31 台

- ・ 民間事業者の車両及び市が保有する車両ともに、順次更新時にバリアフリー対応となる予定であり、平成 32 年までに対象の全車がバリアフリー対応車両となる見込み

目標 3-1 関係者の連携を強化し、新しい公共交通利用者を増やす

①転入者の公共交通利用率

現況 (H27 年度)	目標 (H32 年度)
- % ※参考 34%	36 %

- ・ H22 年国勢調査において廿日市市に居住する 15 歳以上の通勤・通学者の利用交通手段は、「鉄道・電車・乗合バス」のいずれかを利用している人が 33.5%である一方、交通条件等が似通った広島市の西区・佐伯区の値は 35.9%
- ・ 転入者の公共交通利用率の目標値は、転入時の情報提供等の充実等により、広島市西区・佐伯区の通勤・通学者と同レベルの 36%と設定する

表 15 歳以上の通勤・通学者の利用交通手段

居住地	鉄道・電車・乗合バス (公共交通)の いずれか利用 (人)	公共交通以外 の手段を利用 (人)	鉄道・電車・乗合バス のいずれかを 利用している割合
広島市西区・佐伯区	40,481	112,813	35.9%
廿日市市	13,908	41,478	33.5%

資料：平成 22 年国勢調査

②市内の高校に通う高校生の通学でのバス利用率

現況 (H27 年度)	目標 (H32 年度)
8 %	10 %

- ・ 現在の市内の高校に通う生徒の通学時のバス利用率は 8%
- ・ 一部の高校では登下校時の自家用車による送迎が非常に多くなっている一方、バスサービスが改善された場合の利用意向を持つ人は一定の割合で存在
- ・ 既存のバスサービスで登下校の利用が可能な廿日市西高校や佐伯高校を中心に、公共交通利用に向けた取組（情報提供の充実やモビリティ・マネジメント等）を進め、市全体でバス利用率 10%を目指す

表 学校及び生徒・保護者への調査結果（H27年度）

学校名	学校による調査結果			生徒・保護者へのアンケート調査結果			バス利用環境
	生徒数	通学時 バス 利用者数	バス 利用率	登下校時の 送迎が 月11回以上	バスサービス改善 による利用意向 (現在非利用者)		
					生徒の 回答	保護者の 回答	
廿日市 高校	875	27	3%	7%	17%	30%	最寄りバス停(桜尾)は登下校 時間帯にバス運行無し
廿日市 西 高校	783	109	14%	12%	40%	46%	最寄りバス停(廿日市西高前・ 阿品台西)は登下校時間帯に 阿品から一定の便数が運行
山陽 女学園 高等部	410	38	9%	17%	14%	50%	広電山陽女子大前駅より至近 のため、駅までのアクセスでの 利用が中心になる
宮島 工業 高校	802	37	5%	9%	21%	45%	最寄りバス停(宮島工業高校) は登下校時間帯にバス運行は あるものの、便数が限られる
佐伯 高校	83	34	41%	54%	36%	54%	最寄りバス停(佐伯高校前)は 登下校時間帯に一定の便数が 運行しているが、バス停から学 校までが約400mの上り坂
計	2953	245	8%	-	-	-	

③高齢者の運転免許返納件数

現況（H27年度）	目標（H32年度）
211 件/年	300 件/年

- ・ 国立社会保障・人口問題研究所による推計では、平成 32 年度の廿日市市の高齢人口は約 3 万 6 千人
- ・ 高齢人口に対する年間運転免許返納件数は増加傾向にあり、この傾向が続けば（線形近似）、平成 32 年度にその値は 1.05%となる見込み
 現状（平成 27 年度）は $211 \text{ 件} / 31483 \text{ 人} = 0.67\%$
- ・ よって単純に推計した場合の平成 32 年度の高齢者の運転免許返納件数は次の通り
 $35,629 \text{ 人} \times 1.05\% \approx 374 \text{ 件/年}$
- ・ 一方で、現在の高齢者の免許保有率の増加傾向が一段落すれば、高齢人口に対する年間の高齢者の運転免許返納件数も一定の値に収束していくことが予想されることから、上記の数より少なめに見積もり、目標値を 300 件/年とする

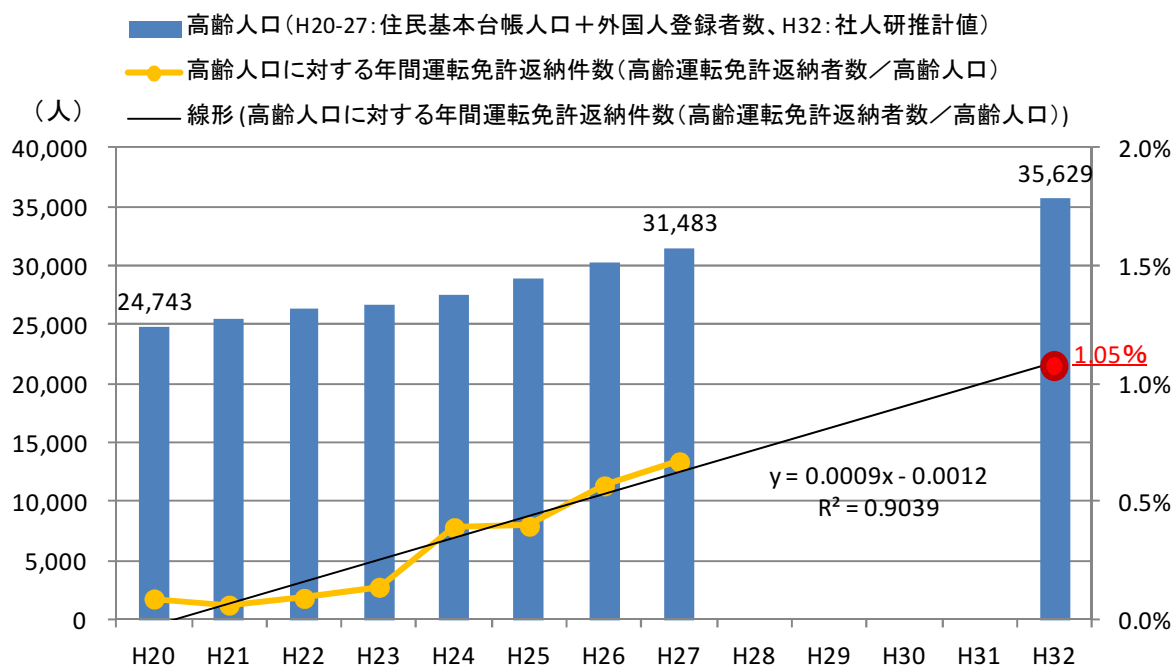


図 廿日市市における高齢者人口と高齢者の運転免許返納状況

目標 3-2 宮島口の混雑を緩和し、来訪者に快適な移動を提供する

①宮島口周辺の渋滞長

現況 (H21 年度)	目標 (H32 年度)
12.3 km ※社会実験現況調査値	7.0 km

- ・別計画で掲げている目標を踏襲

②宮島口駅 (JR、広電) の日利用者数

現況 (H25 年度)	目標 (H32 年度)
13.5 千人/日	13.7 千人/日

- ・宮島口駅の日利用者数 (乗降客数) は、JR 宮島口駅が 8,202 人/日、広電宮島口駅が 5,339 人/日 (計 13,541 人/日)
- ・宮島口駅の立地する大野地域の平成 27 年から平成 32 年までの人口増減率の予測値は+0.7%とほぼ横ばい (P.3 の表参照)
- ・廿日市市観光振興基本計画における宮島への宮島の観光客の増分が鉄道を利用すると仮定すると、1 日あたり+0.2 千人/日となるため (P.1 参照)、目標値は現況から+0.2 千人/日として 13.7 千人/日とする